

図書紹介

松島悠佐 陸自61著

『中高生から始める

安全保障の入門書』

白石 一郎 陸自61

日本は憲法で戦争を放棄した。ついでに戦争について教育することも放棄した。

お蔭で世界でも稀な軍事アレルギー！軍事音痴の平和ほけ国家になった。戦争の悲惨さを繰り返し教え、戦争反対をことある度に喧伝するが戦争とは何か、どうすれば戦争にならないかを考えようとしなさい、教えない。いや憲法9条を守れば戦争にならないとは教えている。

何も教えないよりもっと悪い。

こうした状況に危機感を持った著者がイデオロギーに偏らない本質的な事を将来の日本を担う中高生に素直に教えるべきだとして本書を著わした。

表題に「中高生」が入ると中高生しか買わなくなると出版社は言ったそうだが取えて「中高生から始める」を入れたことに著者の思い入れの強さがうかがわれる。

まず本の体裁が小ぶりの46版、蛍光オレンジの瀟洒な色彩の表紙、ついに手に取りたくなる。広範な内容を

1 2.5頁、5章にまとめた。

I 戦争はなぜ起こるのか

II 戦争を起ささない方法

III 我が国の安全保障環境

IV 我が国の安全保障の問題点

V 第3次世界大戦

どの章も詳述すれば何冊にもなる大きなテーマであるがその中から本質に係わる数項目を選別して大胆な結論を平易な言葉で分かり易く述べている。著者は平成7年、中部方面総監で退官した直後から現在まで勇志国際高等学校（文科省認定通信制高校）の顧問として生徒と接してきた。その体験のせいであろう、あくまで中高生がなじみやすいような語り口で説明している。

しかし大事なツボはしっかり押さえており大学生・一般の人にも十分通用する。安全保障に関する格好のガイダンスである。この本をゼミの教材に使えば立派な教育ができるであろう。

中高生は勿論、彼等を教える先生、憲法9条改正反対を臆面もなく叫んでいる国会議員の先生方にも是非読んで貰いたい良書である。

内外出版株式会社

目黒区鷹番3-6-12

03(3712)0141

定価 800円(税別)

図書紹介

佐野紀元 陸自66著

復刻『ある村長の満州引き揚げ、

戦後復興奮闘記』

久保 善昭 陸自65

本書は、大正、昭和、平成と3代にわたって、激動する時代を「清く正しく」そして「人のため」と生き抜いた著者の生き様を赤裸々に語った人生記録である。

佐野剛氏は平成5年に永眠されたが、晩年の昭和57年に、自らの生涯を『悔いなき晩景』（私家本）として、子供、孫たちのために書き残された。

剛氏は、第1次世界大戦勃発の大正3年に生まれ、宮崎高等農林学校卒業後、難関と言われた南満洲鉄道に就職し、終戦までの10年間、新国家建設に心血を注いだ。この間、結婚と長男紀元氏の誕生があった。

昭和20年、ソ連侵攻によるハルビン脱出など筆舌に尽くしがたい苦難を経て、1年後、裸一貫で帰国した。

終戦後、民主日本再建の意気高らかに旧弊を打破し、33歳で故郷の村長に当選し町村合併まで2期務めた。その後、熊本県新農村建設県顧問を始め菊池市役所などいくつかの公職において誠実積極的に活躍された。

本書は、長男、紀元氏が「悔いなき晩景」（私家本）を自身の喜寿を機に父の遺徳を偲び、復刻出版したものである。

その意図するところは混迷する時代の若い人達に、いかなる困難があっても夢を捨てず希望をもって人生を歩めという激励応援である。

なお、紀元氏は防衛大学校10期生、「肥後モッコス」の典型であり、自衛官生活では常に部隊精強のための正論を吐き、群れず信念を貫いた。まさに父の教えを實踐した人物である。

今や「平成から令和」の時代に遷らんとする時期である。明るい新時代の到来を期待する祝賀ムードに溢れているが、この豊かで平穏な時代の前、大正、昭和の時代に何があったのか、また、その時代に懸命に生きた日本人の足跡を追体験し、心を新たにするのは有意義と考える。

国家安泰の任にあたる者は、有事国民の生命を守るといふことが如何に困難であるか、また国策を誤ると弱い立場にある国民が塗炭の苦しみに喘ぎ、多大の犠牲を払わざるを得ないことを肝銘すべきである。

本書は読み物としても満洲の風俗習慣、生活など興味が尽きず、脱出行の件は手に汗を握る迫力がある。是非、一読を薦めたい。